

〈未来は、子どもたちにしかな 変えられない〉

ジャーナリスト
松本 侑壬子

第二次世界大戦直前、ナチスによる迫害を逃れてユダヤ人の子どもたちがヨーロッパ各地からイギリスに送られた。「キンダートランスポート(子ども

輸送)」と呼ばれ、列車と船を乗り継いで里親を頼ってイギリスに渡った。ナチスによる大規模なユダヤ人商店破壊や礼拝堂の放火、成人男性の大量逮捕・強制収容所送りなど迫りくる危機を前に、せめて子どもを命だけでも、と親たちは必死で我が子を列車に乗せたのである。

これは、後に『イギリスのシンドラッグ』と呼ばれる当時二九歳の英国人ビジネスマン、ニコラス・ウィントン青年による六六九人のユダヤ人児童救出作戦と、救われた子どもたちのその後を追った感動の人間記録。当時と現代の膨大な記録映像に一部エピソードの再現ドラマを加えて、わかりやすく普遍的な問題として平和とは、戦争とは、を改めて問いかける。ナレーションを担当す

るのは、当時救われた子どもの中の一人、現在カナダの著名なジャーナリスト、ジョー・シュレジンジャーである。

一九三八年十二月、チェコスロヴァキア(当時)の首都プラハで難民救援活動中の友人の手伝いにやって来たウィントンは、初めてユダヤ人難民に接し、すぐに子ども救出活動の必要を感じる。それまで人道支援もボランティアも経験なかったが、「キンダートランスポート」の準備を始め、翌一九三九年三月十四日から八月二日の四ヶ月余りの間にチェコから六六九人の子どもを救出した。続いて二五〇人を送り出す手筈が整ったところで、同年九月一日のドイツのポーランド侵攻で第二次世界大戦が勃発、輸送は中止となり、子どもたちの大半は見殺しにされた。この苦い経験以後、ウィントンは子ども救出作戦については一切口をつぐんでいた。当時のニュース映像に残る首から名札を下げスーツ

ケースを持った子どもの姿は、後に「くまのパディントン」として世界中で愛されるキャラクターとして甦った。

ウィントンは、戦時中は空軍パイロット、戦後は種々のビジネスで成功を収めながら難民支援や慈善活動を続け、家庭生活も幸せ。「毎日が忙しくて、過去は忘れていた」という。一九八八年のある日、妻のグレタが自宅の屋根裏部屋で古ぼけた一冊のスクラップノートを見つけた。膨大な数の子ども一人ずつのデータが顔写真入りできちんと記録されていた。これこそ五〇年前に六六九人の子どもを救った「キンダートランスポート」の記録だった。ノートはBBCに渡り、誰も知らなかったウィントンの偉業は世界中で報じられた。

救われた子どもたちは世界各地で学者、芸術家、起業家、教育者、菓子職人、ボランティアなどに立派に成長し、その子孫は六千人に増えていた。本人すら予想しなかったこの感動の事実、特に若い世代からの反響が大きいという。「七〇年前に私がやったことが、これほどの影響力をもつとは！この物語が未来を生きる人々の一助になればうれしい」。昨年、一〇六歳で大往生したウィントンの幸せな言葉である。



『ニコラス・ウィントンと669人の子どもたち』

チェコスロヴァキア合作映画(101分)

監督: マテイ・ミナーチュ

出演: ニコラス・ウィントン、ヴェラ・ギッシング、アリス・マスターズ、ベン・アベレスほか

11月26日(土)より、YEBISU GARDEN CINEMA ほか
全国順次公開

©TRIGON PRODUCTION s.r.o. WLPs.r.o. J&T Finance Groupa.s. CZECH TELEVISION
SLOVAK TELEVISION 2011